

## 「県政タウンミーティング」会議録

テーマ **「県民とともに進める『しあわせ信州』の創造」**  
日 時 平成 25 年 5 月 10 日（金） 午後 6 時から午後 7 時 30 分まで  
場 所 安曇野市三郷公民館 講堂

### 鼎談参加者

○長野県知事 阿部守一

○小田切 奈々子 氏

（自然エネルギー信州ネット事務局コーディネーター）

市民参加型の自然エネルギー事業が県内で普及していくことを目指し、地域に密着した自然エネルギー事業モデルの構築に携わっていらっしゃいます。

○高木 直樹 氏

（信州大学工学部建築学科教授、日本ヒートアイランド学会理事）

長野県環境審議会地球温暖化対策専門委員会副委員長として、長野県環境エネルギー戦略策定に携わっていただきました。

### 目 次

1	知事あいさつ .....	1
2	「しあわせ信州創造プラン」の概要説明 .....	1
3	「しあわせ信州創造プラン」についての知事のコメント .....	4
4	鼎談テーマの趣旨説明 .....	7
5	鼎談 .....	8
6	会場との意見交換 .....	18
7	知事あいさつ .....	24

## 1 知事あいさつ

【長野県知事 阿部守一】

皆さん、こんばんは。大変お忙しい中、本当に大勢の皆さんにタウンミーティングにお越しいただきまして、ありがとうございます。今司会の方からも話がありましたけれども、タウンミーティングということで、私がこうやって県民の皆さんと対話をさせていただくのは今回で 29 回目です。

新しく県が「しあわせ信州創造プラン」という計画を作りました。いわゆる総合 5 か年計画ですけれども、総合 5 か年計画って私は嫌だなと、冷たい感じがするのですよね。何とかもう少しやわらかい愛称を付けて、私は今回の県の計画は、県民の皆さんと目標を共有して、県民の皆さんと一緒に実現したいと思っています。行政の計画というと、ほとんどの人が知らなかったり、県庁の中には置いてあるけど、棚に飾ってあって議会の答弁作る時だけ引っ張り出してくるようなことになりがちなところがありますけれども、是非今回の計画はそういう形にはしたくないというのが、私の思いであります。

そのためには、このプランの内容を一人でも多くの県民の皆さんに知っていただいて、そして、「よし、ここの部分は私も一緒にやってみようかな。」というふうに思っていたかなければいけないと、そういう思いであります。

これから県内各地に出向いて積極的にお知らせをしていきますので、ここの部分は自分も一緒にやれるなというところを見つけていただいて、是非一緒に取り組ませていただきたいと思います。「地勢と知恵を基礎とした環境・エネルギー自立地域の創造」ということを今回の計画の中でうたっています。今日は、そこの環境・エネルギー政策のところに焦点を絞って、高木先生、そして小田切さんにもお越しいただいているので、皆さんと一緒に頑張って、環境エネルギー自立地域をどうやって作ろうかと、その先に「しあわせな信州」をどうやって作ろうかということ、皆さんと一緒に考える場にしていきたいというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 2 「しあわせ信州創造プラン」の概要説明

【企画課計画係長】

「しあわせ信州創造プラン」の説明資料と概要版冊子お配りしています。この 2 つでご説明をさせていただきます。

内容に入ります前に、皆さん、県で何とか計画ですとか、何とか戦略とか、そういうものがいくつあるとお思いでしょうか。実は主なものだけで 70 ほどございます。

本日資料の中でお配りしております「長野県環境エネルギー戦略」というのも、その中の 1 つとなっております。そういう個々の分野の計画を包含するような上

位の計画として、この5か年計画というものがございます。長野県では昭和41年から、ほぼ5年ごとに5か年計画というものを作っておりまして、前回ですと平成20年から24年までの計画期間とした中期総合計画というものがございました。ただその間に、ご存じのとおり東日本大震災の発生ですとか、あるいはリーマンショックなど、大きな社会経済情勢の変化が生じまして、こういう大きな変化に対応しながら、今後県づくりどうやって進めたらいいのかということで、今回平成25年から29年までを期間とします計画が、この3月に策定されたところでございます。

この計画は、今までとスタイルを変えまして、県民の皆様と一緒に実現を目指すというものでございまして、親しんでいただくという意味も込めまして、5か年の歴史の中で初めて、「しあわせ信州創造プラン」という愛称を付けさせていただいたところでございます。このプランの策定に当たりまして、「概要説明資料」の一番表のところがございますけれども、「時代の潮流」というような現状、あるいは、「長野県のポテンシャル」。ポテンシャルというのは、潜在能力ですね。先人の方々が築いてこられた誇り、誇れる強みというものですが、そういうものを踏まえまして、従来の延長線上の施策を続けているだけでは新たな課題の解決はできない、あるいは、信州の強みを磨き上げまして、質が高く持続可能な社会を創造する必要があるということをも認識したところでございます。

それを踏まえまして、信州の将来像として、「確かな暮らしが営まれる美しい信州」ということを基本目標としております。「確かな暮らし」というのは、県民の皆様が明日への希望をもって日々生活を送っていただきまして、万が一の場合は、温かな支援が受けられるというような安心があるというものでございます。「美しい信州」の「美しい」というのは、例えば、先人の方々によって守って育てられてきた豊かな自然、安曇野はまさに代表的な例だと思いますけれども、そういう自然や風景ですとか、地域に築く郷土への誇りや絆を大切にするような心ですとか、あるいは、子どもから大人まで未来に向けてひたむきに努力する姿というものを表しております。この基本目標に向いまして取り組むためには、将来どのような長野県になってほしいのかということをも明確にした上で、その姿に向かって県づくりに取り組むということで、具体的にはですね、今生まれた子どもたちが大人になるまでの概ね20年後を想定しまして、私たちが次の世代に引き継ぎたい未来の信州の姿として、ここに記載の5つの姿というものをまず描きました。これら5つの将来像を実現して、「確かな暮らしが営まれる美しい信州」にするために、今後5年間に、県行政と県民の皆様の英知を結集しまして取り組む政策推進の基本方針ということで、3つ掲げてございます。

方針1は、『『貢献』と『自立』の経済構造への転換』。県民の皆様の生活を支える上で、世界に評価され貢献できるような産業、あるいは、力強く安定した経済の構造ですとか、今回のテーマにもなっております自然エネルギーの活用ですとか、水・食料の安定的な確保などによりまして、地域の自立を目指すというものでございます。

それから、方針2は、「豊かさが実感できる暮らしの実現」ということでござい

ます。県民の皆様一人ひとりが持っている能力を発揮しまして、安心して長生きができ、自然や文化に誇りをもって暮らせるような環境を目指すというものです。

そして、方針3、「『人』と『知』の基盤づくり」。未来を切り開く知恵と行動力をもった人材の育成ですとか、人口減少の抑制、あるいは、社会活動へ参画する人の増加といったものに取り組みたいというものでございます。

さらに、「発信」ということで、信州の価値向上と発信力を外に向けて発信するというものを取り組むというものでございます。この3つの基本方針と「発信」とに基づきまして、未来の信州に向けまして、先駆的で先導的な取組、縦割りでない、部局横断的な9つのプロジェクトというものを推進していきます。

しかし、先ほども知事が申し上げたとおり、県だけですべて実現できるものではございませんで、県民の皆様と一緒にやって取り組まない目標の実現は難しいということで、この計画では、県の取組を「アクション」、それから、県民の皆様へのお願いを「県民の皆様へ」と記載しまして、達成目標を明確にした上で取り組むということにしております。

本日のタウンミーティングのテーマは、方針1「貢献と自立の経済構造への転換」の3つのプロジェクトがございすけれども、その1つの「環境・エネルギー自立地域創造プロジェクト」というものになります。省エネルギー化の促進などを行うということを実践として県で取り組みまして、それとともに、県民の皆様へのお願いといたしまして、ご家庭や企業での省エネの取組ですとか、自然エネルギーの普及拡大に向けた取組などをお願いしまして、一緒になってですね、エネルギー自給率70パーセントなどの達成目標を実現したいと、このような内容をそれぞれのプロジェクトで作っております。

本日は時間の関係で、他のプロジェクトも全部説明する時間がないわけですが、詳しくは「しあわせ信州創造プラン 概要版」（以下、概要版）に各プロジェクトについて9ページから23ページまでに載せてございますので、またご覧いただければというふうに思います。

それから、「しあわせ信州創造プラン」は、総合計画ということになっておりますので、県の施策の全体像を示すという必要もありますので、この概要版の24ページから33ページの方には、県民の皆様の暮らしに則して7つの分野に整理・体系化いたしまして、こちらでも達成目標を数値的に示して記載してございます。先ほど知事が申し上げたとおり、是非ですね、一緒になってできるという部分を見つけていただいて、一緒に取り組んでいただければというふうに思います。

それから、地域編というものがございまして、長野県は広くて、地域ごとに異なる地域の個性とか魅力というものがございす。この概要版の34ページから35ページに、10広域のそれぞれの地域の個性と魅力を生かした目指す方向や方策を記載してございます。地域プロジェクトと達成目標を定めまして、県の組織をあげて、地域の皆様とともに取り組んでいきたいということでございます。地域プロジェクトにつきましては、概要版では紙面の都合もございまして、詳しく載せられませんでしたので、県のホームページをご覧くださいませとか、あるいは、地方事務所の地域政策課にお問い合わせいただければ、詳しく説明をさせて

いただきたいと思います。

以上、雑ぱくではございますけれども、「しあわせ信州創造プラン」の概要をご説明させていただきました。繰り返しになりますけれども、県として、しあわせ信州の創造に向けまして最大限の努力をして参るのはもちろんでございますけれども、県民の皆様を始めといたしまして、市町村の皆様、あるいは企業・各団体の皆様と一緒に実現をしていきたいというふうに考えておりますので、是非、皆様のご協力をいただきまして、よりよい長野県を作っていきたいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

### 3 「しあわせ信州創造プラン」についての知事のコメント

【長野県知事 阿部守一】

是非、「しあわせ信州創造プラン」については、県民の皆さんにはポイントを押さえて、頭にちょっと入れておいていただければありがたいなというふうに思っています。

今回の計画で、私が一番思いを込めているのは、この皆さんにお配りしている冊子の8ページに、「今後5年間の政策推進の基本方針」と書いてあります。今までの長野県の総合計画というのは、総合計画審議会、いろんな人に入っていて、議論していただいて、だいたいそこから出てきた審議会の答申どおり計画にさせていただいています。もちろん今回も、総合計画審議会でご議論いただいて、非常にいいご議論をしていただいていますから、それをベースに作っています。とはいえ、県民から付託を受けている私の思いをもっと出さなければいけないということで、この8ページに書いてあるのは、基本的に全部私が、こういうふうにしていかなければいけないと、県の職員もみんなこういう方向でやってくれ、というものであります。

方針1、2、3、それから、プラス「発信」というのが付いていますけれども、1番目が「貢献と自立の経済構造への転換」。私は、長野県は元気な県でありたいなというふうに思っていますが、元気な県であるためには、やはり産業・雇用、そこがしっかりしていなければいけないと思っています。ただ、この産業も今まで同じようなことを今までと同じような形で繰り返しているだけでは、おそらく競争力は下がってしまうというふうに思っています。どういうふうな方向で考えるのか、「貢献」と「自立」というのも、なんだかよく分らないというところがあるかもしれませんが、これは産業だけじゃなくて、物事すべて、自分のためにやっても、おそらく商売うまくいかないと思います。これは人のためになるんだと。例えば、長野県の観光。観光客がいっぱい来て、もうかればいいやという発想だと、多分観光客は減ります。それよりも、長野県のこんな雄大な景色のところに大勢の人に来ていただいて、どう癒されてもらおうかな、どう我々はおもてなししようかということを生懸命考えて、来てもらう人に貢献するのだという精神でやれば、必ず私は大勢のお客さんを呼び込めるというふうに思ってい

ます。それから、「自立」。産業・経済を考えた時に、やはりいつもお金が外に出て行ってしまふような話や、いつも国からお金をもらいましょうというような話ではいけないのだろうと思っています。今日のテーマの「自立」と関係しますけれども、私は是非エネルギーの面でも、過度に海外に依存しない、他の地域に依存しない、そうした長野県を作っていく必要があるだろうと思っています。そういう意味で、「貢献」と「自立」ということを書いて、そして「経済構造」、これからの成長分野に、しっかりと製造業も観光業も農業も、他の産業もフォーカスしていきませんか、というのがこの1番目であります。

それから方針の2、「豊かさが実感できる暮らしの実現」。数字上の国民1人当たりのGDPは、世界のランク少し下がってきていますけれども、それでも世界で裕福な国、金銭的な価値では豊かな国であることは、私は間違いはないだろうと思っています。ただ、本当に暮らしの中身の充実があるのか。なかなか実感しきれてないというのが日本の課題ではないかというふうに思っています。

昨年、日本総合研究所というところが、全国の都道府県の幸福度ランキングとこののをやりました。順番を付けたのですが、長野県はなんとお陰様で第1位なのですよね。いろんな指標をとって、文化だったり、健康だったり、産業だったり、教育だったり、いろんな評価指標でランキング総合1位なのですが、よく言われるのが、そんなの田舎に有利な、家の面積広いとか、農山村が多いところに有利な指標でやっているのではないかと言われがちですけど、今回の日本総研の順位は2位が東京都です。ですから、別にいわゆる地方に優しいランキングじゃない中で、長野県は1位です。これは、別に県が頑張ったからじゃなくて、県民の皆さん一人ひとりの力だと私は思っていますので、大変感謝しています。やはりその中で、健康長寿、これはそのランキングでも1位です。平均寿命は、これ数値的にも長野県は、男性・女性1位になりました。これは県が頑張ったからじゃなくて、県民の皆さん一人ひとりの心がけですけれども、やはりこの健康長寿はもっと伸ばさなきゃいけない。それから、働く・雇用・社会参画。やはり生きている上で充実できるのは、自分の能力をここで活かせると、自分の働き場所がある、居場所がある、それが重要だというふうに思っています。長野県は、就業率は日本で全国1位。高齢者の就業率も全国1位です。これをやはりもっと伸ばさない手はないだろうというふうに思っています。一人ひとりの能力が生かされる社会を是非作っていきたい。さらには、美しい景観や自然環境、そして、伝統文化の中で、私たちの暮らしは営まれてきているわけですけども、そうしたものを、本当に私たちの暮らしの一部にしていくことが重要。環境との共生、文化的な暮らし、そうしたものをしっかり行っていききたいというのが、この方針の2のところでもあります。

最後、方針3「『人』と『知』の基盤づくり」。この中の皆さんも大変残念に思われている方多いと思いますけども、長野県は他の県に行くと、「教育県ですね。」と言われます。だけど、県民のほとんどは教育県じゃなくなっていると思っています。いろんな課題がありますが、私は是非、もう1回胸を張って、全国に向けて教育県だと、人づくりに熱心な県だということを発信したい。私は、その土壌

は長野県には十分まだあるというふうに思っています。すべての産業もすべての活動も、人次第であります。是非長野県の教育、人づくり、しっかりやっていきたい。

加えて、活動人口を増やさなければいけないです。今長野県は人口がどんどん減っています。日本全体がそうなので、長野県だけではないですけども、なすがままにまかせて人口が減っていると、ますます地域の活力は失われてしまうと思っています。少しお節介なところはありますけれども、今回の計画の中では、活動人口の増加ということで、自然減をなんとか緩和したい。要は、結婚したい人にはもっと結婚してもらい、子ども産みたい人にはもっと子どもを産み育てやすい環境を作る。そうしたことをしていかなきゃいけないと思います。それから、社会減ですね。社会減というのは、他の地域との人の移動で差引マイナスになってしまっていると。これは、別に長野県、昔からマイナスではないのですよ。今世紀に入ってからマイナス基調が続いているわけで、その前はプラスだった時期もあるわけです。長野県は震災以後、やはり長野県みたいところで暮らしたいなど思っている都会の人たちが非常に増えています。「田舎暮らしの本」というのがありますけれども、4年連続「移り住みたい県」ナンバー1が私たち長野県です。だけど、移り住みたくても移り住みやすいような受入体制を作って、ちゃんと情報提供しなければ、潜在的には引っ越したいなど思っても来てくれません。やはりその受入体制もきちり整えて、人口の社会増も目指していかなければいけないと思っています。

そういう意味で、方針1、方針2、方針3、これから長野県5年間ですね、この方針を基本に据えて、県民の皆さんと一緒に、よりよい県づくりにまい進をしていきたいというふうに思っていますので、是非、皆さんのご協力お願いしたいと思います。

最後、「発信」というおまけがくっついて、「発信」。私は、長野県は非常にいいものがいっぱいあるけれども、発信がしきれてないというふうに思っています。これは産業面でもそうです。暮らしの面でもそうです。もっと発信をして価値を認めてもらわなきゃいけない。そのことによって、もう1回我々自身が、自分たちの価値を見つめ直して、さらに長野県の良さに磨きをかけていく、そういう循環を作っていきたいというふうに思っています。「信州ブランド戦略」ということで今取り組んでいます。「概要説明資料」の後ろのところ、信州主義というものをベースに「しあわせ信州」というスローガンで「信州ブランド戦略」を進めていきたいというふうに思っています。また、会場にも掲示してあるこの緑色のハートは、愛称で「信州ハート」というふうに呼ぼうということにしています。

なんか能書きだけ言っていて、自分たち、皆さん一人ひとりがしあわせになってくれなきゃ困るので、是非皆さんと一緒に、一人ひとりの県民がもっとしあわせを実感できる長野県にしていきたいという思いが、この「しあわせ信州創造プラン」であり、今回の「信州ブランド戦略」の「信州ハート」です。是非



そこは頭の隅に置いておいていただいて、皆さんがいろんな活動をされる時に「そういえば、なんか知事がこんなこと言っていたな。」と「そういえば、しあわせ信州だ。」と。「しあわせ信州の中には、なんか3つ柱があったな。」と、「確か、なんか活動人口を増やそうとか言って、結婚したい人にはしようとか言っていたから、隣の若者がまだ独身だからちょっと紹介してやろうかな。」とか、そういうことで、少しずつでもご協力いただければ、私は大変ありがたいなというふうに思っています。

今日の本題のテーマである「自然エネルギー・環境エネルギー政策」の方に話を移したいというふうに思いますが、是非今回の計画、しつこく言って申し訳ありませんけれども、県民の皆さんと一緒に実現する計画だというふうに思っていますので、よろしくお願い申し上げます。

#### 4 鼎談テーマの趣旨説明

##### 【温暖化対策課長】

概要版の11ページ、「環境・エネルギー自立地域創造プロジェクト」ということで、その具体的な実現のための取組として、アクション1からアクション4まで掲げてございますけれども、本日は、アクション1の「省エネルギー化の促進」と、それから、アクション2の「自然エネルギーの普及拡大」、この2つに絞って意見交換を進めて参りますので、よろしくお願いたしたいと思えます。

それから、もう一つのパンフレット「長野県環境エネルギー戦略～第3次長野県地球温暖化防止県民計画～」の方は、先ほどの「しあわせプラン」の下にぶら下がっている個別計画として策定したものでございます。こちらのパンフレットを用いて説明をしたいと思えます。

最初のページに、計画の名称「長野県環境エネルギー戦略」としておりますけれども、これはエネルギーに関して多くの課題が浮き彫りになりました3.11以降の現状を踏まえまして、温室効果ガスの排出削減にとどまらず、省エネルギーや自然エネルギーの推進、それから、エネルギーのピーク抑制、また、エネルギーの自立地域の創造に向けた取組、こうしたことを、環境エネルギー政策というふうに私ども呼んでおりますけれども、こうした政策を地球温暖化対策と合わせて進める計画としているためでございます。地球温暖化対策と環境エネルギー戦略が重なった図は、ただいま申し上げたことを表しているところでございます。

2ページをお開きください。下段にビジョンについて記載をしております。基本目標は、「持続可能で低炭素な環境エネルギー地域社会をつくる」こととございます。

3ページには、目指す具体的な姿を、上段に県民生活、下段にコミュニティについて具体的にお示しをしております。3ページの一番下をご覧いただきたいのですが、このような目指す姿が実現すれば、地域主導型の自然エネルギーのビジネスが地域に雇用を生み出し、そして、経済を活性化し地域の自立を持続的に支



えるエネルギー自立地域を創造することができます。これを、県内各地に広げてくことを目指して参ります。

4 ページをお願いいたします。目標でございますけれども、いくつもの指標で数値目標を定めております。まず左上に温室効果ガスの削減目標を、短期・中期・長期で、ご覧のように定めております。また、エネルギーの使用を減らす指標、あるいは、自然エネルギーを拡大する指標も、ご覧のように合わせて定めているのが本計画の特徴となります。

5 ページからは、主な政策を掲載しております。家庭の省エネでは、新たな仕組みの家庭の省エネサポート制度を構築しまして、家庭との接点機会が多い企業と連携いたしまして、幅広く家庭に対する省エネアドバイスや簡易診断を行って参ります。事業活動の省エネでは、排出抑制に取り組む計画書を県に提出する制度を拡充いたしまして、県が適切な助言や評価などを行うことによりまして、事業者の省エネ対策を積極的に支援して参ります。

6 ページをお願いいたします。建築物の省エネといたしましては、本県の寒冷的な気候を踏まえまして、大規模な建築物だけでなく、個人住宅も含めて、断熱性能などを強化した省エネ住宅へと誘導する。また、自然エネルギーの設備の導入を促進するための制度、こういったものを新たに構築して参ります。電力需要抑制対策といたしましては、県民総ぐるみの運動として、夏季と冬季の節電・省エネルギーに取り組む「信州省エネ大作戦」を展開しております。

7 ページには、自然エネルギーの政策をお示ししております。全県的な産学官民のネットワーク組織でございます「自然エネルギー信州ネット」。それとか、地域協議会との連携ですとか、諏訪湖流域下水道豊田終末処理場において進めております県有施設等の屋根を活用したメガソーラーのプロジェクト。また、「1村1自然エネルギープロジェクト」によりまして、自然エネルギーの普及を地域主導で進める基盤を作って参ります。また、太陽光、小水力発電、木質バイオマス等、自然エネルギーの種別ごとの促進策を地域主導で進めて参ります。

## 5 鼎談

### 【長野県知事 阿部守一】

環境エネルギー政策についての話ということで、ちょっと簡単に最初に私お話ししたいと思えます。概要版の 11 ページに「環境・エネルギー自立地域創造プロジェクト」ということで記載されています。これ概要版なので、本当はもう少し詳しく書いているところです。

けれども、非常に概略化している部分であります。ただ、「達成目標」、それから「アクション」、「県民の皆様へ」のところは本文もだいたい同じことが書いてあるわけですが、全体のこの「しあわせ信州創造プラン」、「県民の皆様へ」というのが、1つの特色であります。1つの特色というか、今まで長野県の計画にはこんなものは書かせていただいていたいなかった。先ほどからしつこく申し上げ

ているように、今回の計画は、県民の皆さんと一緒に実現を目指す。省エネだとか、自然エネルギーは県だけでやるわけがないですので、是非ですね、県民の皆さんにも是非、この省エネルギーだとか自然エネルギーだとか、一緒になって取り組んでもらいたい、一緒になって考えていただきたいと、そういうふうに思っています。今日は是非、その取組のヒント、糸口を見つけていただければ大変ありがたいなというふうに思っています。

この「環境・エネルギー自立地域創造プロジェクト」アクション1、2、3、4と省エネルギー、自然エネルギー、それからアクション3が水資源の保全、アクション4が安定的な農業生産の確保。要は、エネルギーと水と食料。今の私たちの活動にとって、最も不可欠なものがこの3つだと言っても過言ではないというふうに思っています。幸いなことに、長野県は水資源が豊富です。日本の中には今でも夏場になると、水道の蛇口ちょっと開けすぎないでねというふうにやっているところはいっぱいとは言わないまでもありますね。それから、農業。確かに、担い手の方々が減っている、高齢化している、遊休農地が増えているという問題がありますけれども、それでも長野県、まだまだ広大な農地面積誇っているわけですし、農家の皆さんの数も非常に多い県であります。そして、今日のテーマのエネルギー。今の私たちの暮らしのほとんどは、いわゆる化石燃料に支えられているわけで、遠い海外にその素は依存しているわけであります。さっきの「自立」と「依存」で言えば、どちらかというところ、エネルギーはまだまだ依存している部分が多いわけでありますけれども、だけど、私たちの周りに目を向ければ、長野県は非常に日照時間が長い地域が多い県です。太陽光熱、まだまだ使えます。それから、小水力。大きなダム作るのではなくて、身近な農業用水路からだってエネルギーは取り出せます。それから、バイオマス。長野県は県土の8割が森林ですが、まだまだ森林資源を十分に生かし切れているとは言えません。昔はエネルギーと言えば、薪や炭だったわけでありまして、もう1回、身近な森林にしっかりと目を向ければ、まだまだエネルギーの素となる資源は長野県いっぱいあります。他にも様々なエネルギーありますけれども、是非、このエネルギーの部分については、長野県にある私たちの財産、そういうものにしっかりと目を向けて、もっともっと自分たちの身近なところのエネルギーが活用できるのではないかと。是非そういう観点で私は考えていきたいなというふうに思っておりますし、その一方で、これ日本全体非常に省エネが進んだ国であります。技術的にも非常に進んでいるのが我が国でありますけれども、まだまだ無駄もあるのではないかなというふうに思っています。原発の事故があって以来ずっと、県から県民の皆様へ、夏と冬省エネの呼びかけをさせていただいています。県がお願いした以上のですね、成果を上げているのは、本当に長野県民の皆さんのお一人おひとりの力だというふうに思っていますが、少しずつでも省エネを進めていくことによって、これは自分たちでまかなえるエネルギーはより少なくて済むわけですし、もう1つ地球温暖化の問題、これあまり最近、原発の事故の後言われなくなってきてしまっているところありますけれども、世界全体に目を向ければ、温暖化の問題というのは、極めて重要な深刻な問題だと思っています。そうした問題には、やはり

私たちの暮らしのあり方も考え直さなければいけない部分があるのではないかと  
いうふうに思っています。

是非今日はそういう部分に焦点を絞って、今日小田切さん、それから高木さん  
に壇上に上がっていただいていますので、少し3人で、会場の皆様方のご意見も  
聞きながらですね、お話を進めていきたいというふうに思っています。よろしく  
お願いいたします。

それでは、大変お待たせして、申しわけなかったのですが、最初に自己紹  
介を兼ねて、小田切さん、高木さんにはこの環境エネルギーの観点で、どうい  
う取組をされているのか、あるいは、県の施策に対してどういう思いをお持ちな  
のか、そこら辺から少しご発言いただけませんか。

#### 【小田切奈々子氏】

「自然エネルギー信州ネット」事務局をやっております、長野市在住の小田切  
奈々子と申します。

「自然エネルギー信州ネット」というのは、平成23年（2011年）7月31日  
に設立されたので、まだ2年たっていない組織なのですが、市民の皆さん、  
NPO、それから地域の企業、それから大学の先生ですとか、そして、行政機関が  
つながった共同ネットワークというような言い方をしています。

今日も会場に、一緒に自然エネルギーの普及に取り組んでくださっている会員  
の皆様もちらほらいらっしゃるのですが、長野県の温暖化対策課と新エネ  
ルギー推進係が設立されたのも今から2年前なので、信州ネットは県の新たなエ  
ネルギー政策と連携して、ここまで時間がたって今ようやくですね、全県に20  
ほどの地域協議会が立ち上がっています。地域で活躍している方々、もう本当に  
様々な方々がこの信州ネットというプラットフォームの中でつながり合っている、  
そういう形がようやくできたという段階です。

私は3年ほど前に東京から長野に移住して来た者ですが、本当に東京で  
はできないことが長野ではたくさんできるということを身をもって感じておりま  
して、まだまだやれることがたくさんあるというふうに思っていますので、今日  
も一緒に実現するメンバーとして、是非「自然エネルギー信州ネット」にも、会  
員も募集していますので、こちらのパンフレットもご覧いただきまして、中に申  
込用紙も入っていますので、こういう方法で実現する方法もありますので、どう  
ぞ参加していただければと思います。

どうぞ、今日はよろしく申し上げます。

#### 【長野県知事 阿部守一】

ありがとうございます。是非「自然エネルギー信州ネット」にご関心がある  
方は積極的に加わっていただければありがたいなというふうに思います。

それでは、高木先生申し上げます。

#### 【高木直樹氏】

私は、信州大学の工学部で教員をしております。建築の専門なので、建築の話は後でもする場はあるかと思えますけれども、実は私も小田切さんもそうですけれども、東京生まれでございます、東京で30年住んで、長野に来て31年目に入ったので、ついに今年の4月から長野生活の方が長くなって来たというくらい長野にずっといるわけですけれども。最初に東京から長野に来て、周りのすばらしい環境、自然を見て、いいところへ来たなとは思ってはいたのですが、見てみると、長野の人は割とそのことをお気付きになってない。あるのが当り前のところで育ってらっしゃるので、こんなもの当然でしょっていう感じで、そのすばらしさが見えてないことが結構あって。だって、こんなにすばらしいものが周りにいっぱいあるじゃないってことで、結構そのようなこともあって、環境のことにかなり、元々そういうことを研究していたということはあるのですが、発言をするようになった。もっと大事にしようよ、もっとうまく生かそうよという形で発言をするようになっていきました。

長野県の温暖化に関しても、10年ちょっと前ぐらいから温暖化の対策を県で進めたいということで、県民計画を作りたいということで、今回の県民のエネルギー戦略というのは第3次の県民計画になっているのですが、実は第1次の時から、私お手伝いをしてきました。なかなか時代の流れもいろんなことがあって、どうもこれまでの第1次と第2次の県民計画は、結果から見るとあまりうまく、この県民計画ができたから長野県の温室効果ガスが減ったよねというようなところには残念ながらなっていない。だけど、今回の3番目の今回のものに関しては、ひょっとしたらこれをきちんと進めることができれば、本当に長野県の温室効果ガスの排出量は減って、日本の中でも本当に先進的な事例になり得る、モデルになり得るのではないのかなというふうに感じております。もちろんそのためには、県だけではだめで、県民の皆さんと一緒にやってやらなきゃいけないし、県民の皆さんにはいろんな形で、「えっ、こんなことしなきゃいけないの。」ということが記述もされていますので、そのことを是非今日少し学んでいかれて、「そうか、自分にも関係したことなのだな。」ということをお分りいただければいいなと思って、今日は参加させていただきます。よろしくお願いたします。

#### 【長野県知事 阿部守一】

今自己紹介とお二方から思い、活動についてお話いただいたのですけれども、今回の「しあわせ信州創造プラン」のこのアクション1「省エネルギー化の促進」のところは、「県民の皆様方へ」ということで、「家庭の省エネルギー診断や事業者の温室効果ガス排出抑制に向けた計画書制度などを積極的に活用して、コスト削減にもつながる省エネルギーに取り組みしましょう。」ということで書かせていただいているのですが、会場の皆様方、この省エネルギー、意識的に取り組んでいるぞという方とあんまりそんなこと考えてないやという方と2通りいらっしゃるのではないかと思いますけど、今日このグリーンと赤、2枚紙がありますけれども、省エネルギー、すごく意識的にやっているよという人はどっちにしますかね、グリーン、環境に優しいグリーン、あんまりそんなこと考えてないっていう人は、

赤を出してみただけではありませんでしょうか。お願いします。

すごいな。すごいですね。9割ぐらいグリーン、本当ですか。とても優秀な成績だと思いますけれども。少しちょっと小田切さん、今「自然エネルギー信州ネット」でもいろんな取組をされていると思いますけれども。私はさっきもちょっと言ったのですけれども、省エネの呼びかけで、県の作った目標を上回る省エネ達成ずっとさせてきていただいて、県民の皆さんが熱心に取り組んできていただいているなと思っていたのですが、今日こうやって聞くと、やはりそうなのだと思います。「自然エネルギー信州ネット」でいろんな取組をされていて、長野県の特徴は、私があんまり自画自賛みたいなこと言っちゃいけないですけども、自然エネルギーにしても、省エネにしても、私は地域分散型でやんなきゃいけない、地域の皆さんと一緒にやってやらなきゃいけないというふうに思っていて、そういう意味で、この「自然エネルギー信州ネット」という形で、官民共同で取り組んでいるというのは、全国の中でも非常に特色のある取組だと思っているのですが、少しそこら辺小田切さんの方からお話ししていただけないでしょうか。

#### 【小田切奈々子氏】

そうなんです。先ほど申しました全県的なネットワーク、自然エネルギーを普及させていこうという目的と、それから、もう1つ目的がありまして、地域が主役となった新しいエネルギー事業の芽を発掘して支援していこうというような、この2つの目標で「自然エネルギー信州ネット」があるのですけれども、このような考え方の全県的なネットワークというのは、全国でも長野県が初めてです。東京の友人ですとか、県外からは、長野県の取組はすごいねということで、いつも会う度に言われて、全国からも大変注目をされています。福島県でもこの長野モデルを参考に、自然エネルギーを普及させようというネットワークが始まったので、福島県が全国で2番目ということで、長野県は、本当に取組としては先行しているというふうな状態です。阿部知事、1つは長野県に自然エネルギーをたくさん普及させるということが、「自然エネルギー信州ネット」の目的の1つなのですが、もう1つがですね、やはり地域が主役じゃなくてはいけないというところをすごく大事にしていまして、地域主導型の自然エネルギーの普及ということに取り組んでいます。なぜ地域主導なのか。大きい会社がたくさん発電して、たくさん電気売って、自然エネルギーが増えればいいじゃないかという考えもあるのですけれども。これまでも全国各地では、いろんな自然エネルギーの取組があって、国のお金ですとか、市町村の財源を使って風車を建てたり、メガソーラーを作ったりという事例はたくさんあったのですが、正直うまく機能してないものもたくさんありました。故障したまま止まってしまっている風車とか、発電しない発電機とか、いろいろあるようです。それで、自然エネルギーはだめだというようなイメージをもたれている方もいるかもしれないのですが、自然エネルギーに問題があるのではなくて、やはりその進め方というか、従来型の公共事業的な発想で、発電機を作ればいいのか、そういうような発想に問題があったのではないかと今は言われておりまして、本当に地域に根付いた、地域の問題という

のは地域の方が一番分かっていますし、その課題を解決するための、この豊かな自然をどう使っていくかというような発想に変える、ボトムアップ的な発想にするということがすごく大事で、発想を切替える、一緒に考えるすごくいいチャンスじゃないかなと、私は思っています。

【長野県知事 阿部守一】

私は、このエネルギーの問題というのは、実はちょっと他の人と違った見方をしている部分があるのかもしれないですけど、今、小田切さんの話にもありましたけど、やはり地域が主体になっていく方向性っていうのが、この自然エネルギーの推進と私は表裏一体だと思っています。

私は行政の立場で言えば、日本の行政システムっていうのは、ずっと地方分権進めようということでやっていますけれども、まだまだ中央集権強いなというふうに感じています。中央集権が強いなというのは、国と県とか、国と市町村の問題だけではなくて、皆さんが身近なところでおかしいなと思っていたことがなかなか変わらないのですよ。霞ヶ関に陳情しなければ変わらないのが中央集権。ここに来ている皆さんが、私に苦情を言って変わるのが地方分権ですから。私は、なんか地方分権というと、国と地方の権限争いみたいな、財源争いみたいな感じになってしまっているところがあって、これは我々の取組方にも問題があると思いますけれども。是非これ住民の皆さんにも一緒に考えていただきたいというふうに思っています。エネルギーの問題も、化石燃料を海外に依存していると。ブラックボックスですよ。要するに、誰がどこで採掘したものを我々エネルギーで使っているのだから、みんな分からないですよ。いつどうなるか、中東で紛争が起きたらどうなるか。長い道のりを経て、ここの電気が灯っているわけですから、世界的な、世界的じゃなくても局地的な紛争が起きたら、どうなのかとか。あるいは、今円安です。輸出企業にとってはプラスですけど、輸入するものに対してはコストが上がってくると、そういう時に、海外に過度に依存しているというのは非常に不安定な部分もありますし、そして、先ほどの中央集権、地方分権的な視点でいけば手が届かない。こうしたいと、もっとこういうように切り替えようと思っても、そんなにすぐ切り替えられないですよ。故障しても、今のエネルギーの巨大な仕組みがどこかがおかしくなっても、我々の力では到底手が届かない。だけど、自然エネルギーで身近なところで発電したりしていれば、何か故障してもどこが故障しているか分かれば、すぐ誰かに直してもらえると、そういう発想、そういう視点で、実は私エネルギーの問題も眺めていまして、やはり自分たちがコントロールできる、自分たちの身近なものを自分たちの地域のために使う、そういうことが分権でもあり、このエネルギーの分権化ではないかなというふうに思っています。

高木先生、ずっと先生は、先ほどのお話にもありましたが、長野県の温暖化対策に携わってきてこられて、先ほど、今回の戦略まだ分らないけど可能性があるのではないかなということで、先進的な取組になり得る芽があるのではないかなというお話ありましたが、そこら辺を少し会場の皆様に分りやすくお話いただけま

せんでしょうか。

【高木直樹氏】

例えばですね、先ほど皆さん、グリーンを上げられた。多分私が思うに、この赤の紙を上げられた人も、「エネルギーなんかどうでもいいよ。使い放題使った。昔から湯水の如く使うって言うじゃないか。」と言っていらっしゃるのではなくて、自分の取組だと、ちょっとこのグリーンを上げるのはいかがなものかなと、謙遜されて赤を上げてらっしゃる方がほとんどなのではないかなと考えています。実際に、私はいろんな人とお話すると、省エネのことを全く考えていないという人はほとんどもういらっしゃらなくなっているのが現状です。ただし、どこまでやればいいのかは分からない。何をすればいいのか、どういうふうにやれば一番効率がいいのかは分からない。

例えば、家に冷蔵庫がある。古い冷蔵庫は電気使うから、新しいのに替えた方がいいよって言われるけれども、新しいのを買おうと思ったらお金もかかるわけです。その冷蔵庫がどれだけエネルギーを消費しているから、例えば、今の新しいこの冷蔵庫に替えると、例えば3年で元が取れますよというのがはっきりすれば、買い替える気にはなりますよね。それどうやったらいいの、というのをサポートできないかというようなことも考えて、この新しい県の計画が入っているのです。

あるいは、住宅がありますよね。実は、住宅はエネルギーを最も使っているものの1つなのですけれども、その住宅に関しても、どういう住宅を建てれば省エネになるのかっていうのが分からないです。例えば、テレビのコマーシャルや新聞のコマーシャルを見ていると、ほとんどすべての会社がエコな住宅。環境に優しい、地球に優しいと。デザインはよくて立派だけど、環境には悪いと言っている住宅メーカーってないです。どこも優しいと書いて、地球のためとかグリーン何とかって、よく分からないけど、そういうようなことを書いています。どれがいいだろうかというのは、やはり自分で判断しなきゃいけないで、自分で判断する時に、そんなこと言われても専門性がないので分からないという皆さんがほとんどなので、まずはこの住宅はどのような特徴がありますかということからまずきちんと説明してもらおうようにしよう。それから、それを皆さんがちゃんと考えるきっかけを作ってもらおう。それは、集合住宅のような大きな建物だけでなく、皆さんが多分持ってらっしゃるような住宅、正確に言うと、床面積10平方メートル以上と言っているんで、10平方メートルより小さい家に住んでらっしゃる方はめったにいません。10平方メートルより大きい犬小屋はあるかもしれませんが、つまりほとんどすべての住宅がそれにひっかかるようにわざと作られています。極端な義務が課されているわけではないですけど、まず考えてね、ということ載っていて、考えてねという要求が出てきた時に、工務店さんなりハウスメーカーはそれに応えなければいけないので、うちはこういう特徴がありますとかということの説明しなきゃいけなくなります。そこからまずやってみようということで、計画にも入っています。そういうような非常に皆さんにとって身近

な問題なのだけど、よく考えるとどうしていいかわからないところに関しては、県がちゃんと責任をもってサポートしようというふうにお考えになっていると、私は思っているのですが、知事、それでよろしいですね。

【長野県知事 阿部守一】

県も今、高木先生からおっしゃっていただいたように、私はやはり行政がやらなければいけない役割というのは、「皆さん省エネしてください。頑張っって少しやせ我慢してもいいからやってください。」と言うことではないと思っています。もちろん呼びかけはしますし、できる範囲で省エネしてくださいとは言っていますけれども。それよりもむしろルールとか仕組みとかですね。これ個人では絶対できない話で、やはり行政がやらなければいけない役割というのは、住民の方が意識しなくても、そういうことができるのねというのを気付いてもらう仕組みですとかですね、あるいは、工務店の人たちには、ちょっと義務付けになっちゃいますけれども、ちゃんと住宅を建てる人たちには、こういうこととこういうことを説明して、その上で判断してもらってくださいねと、そういうことを働きかけたり、ルールを作ったりするというのは行政しかできない話ですから、そういうところにしっかりと方策を講じていくのが我々の役目だというふうに思っていますし、そういう観点で、高木さん方からもいろいろご意見をいただいているというふうに思っています。

【高木直樹氏】

今、言ったように、力強いお言葉をいただきましたので、要するに、皆さんの生活にとって、省エネやりたい、やりたいけど、本当に身近な問題、いないところの電気を消すなんていうのは、別に県に相談しなくてもできるわけですが、もうちょっと難しいことになって、どうしていいか、これはやった方がいいのか、やらない方がいいのかよくわからないというようなことに関してのサポートとか、一番難しいのは住宅だと思いますので、その住宅のことについてもきちんとサポートしようというようなことを県が真剣に考えていただいたので、あとは、県民の方がそれをうまく利用していただければ、それなりに効果は出ると、私は感じていますし、期待をしていますという、先ほどの質問に対しての答えになるかと思います。

【小田切奈々子氏】

今伺っていて思ったのですが、省エネルギーも自然エネルギーの普及も、エネルギーのことに取り組んでいくと、1個1個課題がいっぱいあると思うのですが、それをクリアしていくことで、きっと何か仕組みが変わっていくとか、社会が変わっていくのだなというのを、今お二人の話聞いていて思ったのです。単に、エネルギー問題ということで解決するのではなくて、なんか1個1個それを取り組むことで、すごく私たちの暮らしの仕組みが変わっていくのだというふうに、伺っていました。



【長野県知事 阿部守一】

是非、私はライフスタイルの問題でもあるかなというふうに思っているので、あまり行政的な観点だと、その暮らし方みたいなところに口出ししちゃいけないのですけれども、世の中の移り変わりとともに、やはりライフスタイルとかも、エネルギーをどんどん使う時代から賢く省エネする時代に移って、エネルギー源も化石燃料から自然エネルギー、持続可能性のあるエネルギーの方にシフトしていく時代になっているというふうに、私は考えていますし、是非このところは県民の皆さんとですね、問題意識を共有させていただいて、同じ方向で進んでいただけるとありがたいなというふうに思っています。

先ほど省エネの話をちょっと聞かせていただきましたけれども、先ほどからいろいろ自然エネルギーという話が出ていますが、また会場の皆さんにお伺いをしたいと思いますけれども、自然エネルギーについて、自分は自然エネルギーについて関心を持っているし、なおかつ、ご自分の暮らし、あるいは、ご自分の事業活動で自然エネルギーを使っている、あるいは、使ってみようと考えている、そういう方は先ほどのグリーン、あまり自然エネルギーとか言ってもぴんとこないし、使うか使わないかまだそんなこと分らないなという方は赤の紙を、ちょっと上げてみていただけますでしょうか。

先ほどよりは赤がちょっと多いけれども、グリーンの方が多いという感じですかね。この結果をご覧くださいになって、お二方いかがですか。

【高木直樹氏】

私もグリーンを上げました。私は家に太陽熱の温水器が付いていますが、長野は昔からかなり普及していたという話を聞いていますが。おかげさまで、5月に入ってからぐらいですかね、ほとんどお風呂入る時にガスを使わずに全部太陽熱の温水器だけで供給ができているという生活によく入ってきて、これから多分9月ぐらいまではほとんどお湯はいらない。ガス代が月に600円とか800円の世界に入ってきますので、経済的にもありがたいなというふうに感じていますが、何よりも、そのお金の問題よりもガス使わずにお風呂に入れているということのありがたみ、いいなと思っています。多分自然エネルギーの最大のメリットはそこじゃないかなというふうに、私は感じています。

【小田切奈々子氏】

うちは薪ストーブを使わせていただいているのですが、ちょっと住宅地から離れた古民家なものですから、そういう環境的にも薪ストーブが使えたというのもあったのですけれども。今年すごく長野が春になってからも寒いですよ。灯油を買っていいものかどうしようかというふうに思っていたのですが、薪のストックがあったので、灯油を追加で買わずに、薪で寒い日もしのぎながら、それも、灯油がどうのというよりも、とても豊かな贅沢なことをしているのだなというふうに、東京から来た者としては実感しています。

【長野県知事 阿部守一】

お二方とも非常に得した豊かな生活されているなと思いますけど。本当に、例えば、都会で薪ストーブのある暮らしなんていうのは、したくてもできない人がいらっしやると思っていますし、そういう意味では、薪ストーブというのは、自然エネルギーの活用という観点ももちろんあるけれども、先ほど言った暮らしの豊かさという観点でも、私はもっともっと普及させていく必要があるのではないかなというふうに思っています。

【小田切奈々子氏】

なんか木の種類も少し知識が出ましたし、森で働いている皆さんとも交流ができたとか、とても楽しい生活を、本当に薪ストーブがあっとうれしいというふうに今思っています。

【長野県知事 阿部守一】

お二人の方から、会場の皆さんにお聞きしたいこととか、あとまた、会場の皆さんから我々に質問したいこととか、少しやりとりをさせてもらえればと思いますけれども、お二方の方から何かございますか。

【高木直樹氏】

先ほど小田切さんがお話になった時に、「地域」が主体になって自然エネルギーをという話をよく何回かされていて、ちょっとその時に補足したいなと思っていたんですが、小田切さんの言っている「地域」というのは、何か「地域」というものがあるわけではなくて、「あなた」という意味で、多分おっしゃっているんだと思います。自然エネルギーを導入するのを検討するのは「あなた」、そして、それをメンテナンスして維持していくのは「あなた」、そして、それによって収入が得られるとしたら、それを享受するのも「あなた」という意味でおっしゃっています。要するに、例えば、今急に停電が起きて止まったとしたら、今我々何もすることできないですよ。ブレーカーのところへ行ってチェックするぐらいのことしかできないですよ。だけど、もし自然エネルギーで、自分たちで作っているエネルギーだったら、どこかに行って、ちょっと水車の具合がおかしくなっていないか見てこようということが現実にはできるし、それで対応はできることになります。そういった意味で、エネルギーがどこから来るかわからないけど、ひねれば、あるいは開ければ、そのエネルギーがバーッと来るというのではなくて、自分たちでエネルギーを作っているというのは、その分大変なのですけれども、そこに当然仕事も生まれるし、雇用も生まれるし、というメリットも含めて、「地域が」というのは、「あなたが」とここでは言っていますが、逆に言えば「私が」という意味にもつながりますので、私たちがみんなでそれを考えていくのが大事なのではないかなというふうに、私は考えて聞いていました。

【小田切奈々子氏】

農作物と一緒に、誰々が作ったトマトみたいなのもと同じで、この電気、高木さんが作っているとかになったら、すごく大事に使うと思うのですよね。なんかありがたいとか、安心だったりしませんかね。もう5年後にはそうなっているのですよね、長野県は。

【長野県知事 阿部守一】

そういう社会にしてかなきゃいけないと思っていますが、県だけじゃできないので、是非皆さんお一人おひとりにいろんな取組と一緒にやっていただければありがたいなと思っています。

## 6 会場との意見交換

【参加者1】

お聞きしたいことがあるのですが。私の家でもですね、薪ストーブ使っていますし、それから、薪ボイラーを使っています。なるべく、そういったことに配慮しているつもりです。ですから、一般家庭で意識を高めるということは大変必要だと思うのですが、1つお聞きしたいのは、企業と一般家庭のエネルギーの消費の比率、これを教えていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

やはり一般家庭でも省エネということに対して、しっかりやっていかなきゃいけないとは思っているのですが、やはりそれに対しては、企業側でもですね、やはりやってかないとなかなかそこら辺の兼ね合いがとれないのではないかと思うわけでした。

【長野県知事 阿部守一】

温暖化対策課の方から。

【温暖化対策課企画幹】

温室効果ガス、CO<sub>2</sub>（二酸化炭素）がその目安になりますので、ほぼエネルギーと同じですので、それでお答えさせていただきます。だいたい長野県では、産業、工場とか、そうしたところがだいたい4分の1。それから、業務というのはオフィスビルとかこうした公民館、これが4分の1。それから、運輸、こうした車とか鉄道、これが約4分の1。それから、残りが家庭や、その他フロンガスとか、そうしたものになっているということです。

【参加者1】

そうすると、各家庭では4分の1ということでもいいわけですね。4分の3は、家庭ではないと、そういうことなのでしょうか。

【温暖化対策課長】

家庭で使っている自家用車とかも含めると、4分の1よりちょっと多いぐらいということになります。

【参加者1】

分かりました。ありがとうございました。

【参加者2】

塩尻の方にバイオマス発電というのが、何十億かけて作ろうと、2015年ですか。計画があるとかいうのを聞いたのですが。長野県は木材がいっぱいあるということで、結構私もいいなとは思っているのですよ。このバイオマス発電ではですね、やはりそれだけお金をかけることもあるし、きちんとしたものを作れば、周りに悪影響与えるとか、ある程度の予想をして、どういうことが起こるこういうことが起こるということをきちんと対応をとっていけば、周りの人たちの支援も相当いただけると思うのですよ。その支援がもし失敗するとですね、やはり木が集まらないという、もう今から予測している、木材が足りなくなるのではないかというようなこともあると思うものですから、その施設はきちんと作ってもらうということは前提として。あと木材も、この長野県の松本平周辺、山の周辺はですね、結構もう薪ストーブといっても、部屋がでかくなきゃ危なくて薪ストーブ使えないのですよね。木がやはり大きくなってきていて、本当に必要だったら切ってもいいよという木が相当あると思うのですよ。そういうものですね、回収とか、そういうことも、木材が足りなくなるという予測があるのでしたら、塩尻でやるにしても、松本で何カ所、三郷で何カ所とか、そういうところで回収場所を設けてですね、そこへ使うとかそういうことも考えていかなければ、うまくいかないのではないかなとも思うのです。2つやはりお願いしたいのは、周辺に悪影響与えないように作っていただくと、きちんとして。あと、今山が荒れていますので、切って使えるものは使ってもらおうということで、そうすると結構発電もよくなると思うのですよね。そこら辺のところではどんな感じなのですかね、今状況的には。

【長野県知事 阿部守一】

今お話あったのは、塩尻で今計画している「信州 F・POWER プロジェクト」と名付けて、産学官連携でやっていこうと、信州大学、東京大学とも連携して、自治体としては、長野県と塩尻市も一緒になってやっていこうという取組です。

今長野県の木材の使用量というのは、年間 30 万立方メートルですが、このプロジェクトでだいたい年間 20 万立方メートルぐらい使おうということですから、かなりですね、長野県の林業にとって大きなインパクトを与える事業だというふうに思っています。この施設はいわゆる木材の加工施設と、それからバイオマス発電。端材も含めてですね、燃やして発電をすると、それから、そこから出た熱エネルギーは地域で熱として利用してもらおう。これ塩尻市でやってもらいますけ

れども、そういう非常に複合的なプロジェクトで、日本のこうした森林資源を活用しての自然エネルギー活用事例としては、極めて画期的なプロジェクトだというふうに思っています。そういう意味で、私としては、是が非でも成功させなければいけないなと思っていまして。今お話がありました、まず周辺への影響を与えない。これ地域の皆さんにも事業説明させていただいて、いろいろ周辺の皆さんからもご要望等もいただいていますので、そういうもの、しっかり対応して、地域の皆さんに受け入れられる施設にしていきたいというふうに思っています。それから、木材の使用量は非常に多いのですけれども、課題としては、木は成長しているのです、その成長量に比して活用量は、長野県の場合極めて少ないのです。ほとんど活用されてないと言っても過言ではない状況ですから、量的には資源は十分にあります。ただ、それを運び出していく、その森林の中の路網の整備等はですね、必ずしも十分に行われてきてないので、今そこをしっかりとやって、しかも、その木材をちゃんといろんな地域から集められる体制づくりが大きなテーマであります。ただ、このプロジェクトだけじゃなくて、やはりそういうことを、しっかり路網を作ってちゃんと山から木材を切り出せるような環境を作らなければ、いつまでたっても昔植えた木がただ成長するのを指をくわえて見ているだけという状況になりますので、いずれにしても、そういうことはやってかなければいけないというふうに思っています。今そういう意味で、この路網の整備を含めた木材を活用できる環境づくり、長野県として力を入れてやっているところであります。このプロジェクトしっかり成功できるように取り組んでいきたいと思っておりますし、周辺の皆さんの理解と協力を得ながら進めていきたいと思っています。

#### 【参加者2】

木材の活用なのですけれど、山に道を開けるっていうのはやむを得ないってこともあるでしょうけど、山に道を開けなくても、山側の道っていうのはあまり通行量も少ないし、そこにでかい木がいっぱいたたって、道の際に木がいっぱいあるという場合、ここの木はもういらぬよっていうようなケースが多いと思うのですよ。無理にあけなくても、結構木材は入手可能。ただ、やはり個人で切るとなるとですね、莫大な金額がかかるということになりますので、そこら辺のところ補助とかですね、そういうのを出したり、里山整備ですか、500円払っている森林づくり県民税ですが、ああいうものを使ったりして、採り出しやすいところから採ってきて、まず使っていくっていうのがいいのではないかなとは思っています。そういう返事で、ありがとうございます。

#### 【長野県知事 阿部守一】

ありがとうございます。もちろん里山整備は、皆さんから1人1年間500円ずつ頂戴をさせていただいております森林づくり県民税でしっかりとやっていきます。ただ、これからの林業はやはりちゃんと高性能機械を入れてですね、効率化させていかなきゃいけないと。路網を入れるというのは、昔のよく無駄な公共事業じ

やないかとか言われていたスーパー林道とかですね、ああいうばかでかい舗装された道路を作るのではなくて、きちんと機械が入って、効率的に山から木を切り出せるような道路を作ろうというものですから、なんか自然環境を破壊するようなですね、ばかでかい道路を作るということではないので、そこは是非ご理解いただきたいと思います。

### 【参加者3】

先ほど高木さんや小田切さん言ったように、「あなた」が「私」がエネルギー取り込むと、僕もそのとおりだなと思いますけれど、そうするためには、いろいろなその取り込めるメニューがいっぱいあることが必要かなと思います。これ拝見しますと、例えば、発電ということに結構注目している。でも、エネルギーは発電だけじゃないと思いますし、また、エネルギーという言葉だけになっていると、目に見える形のエネルギーだと思うのですが、それ以外にもやはり、高木さんみたいに、熱を熱として使う方がいい場合も多いですし、あと、世界中で食べ物の半分が捨てられているという事実みると、食べ物を作るためにエネルギー使うので、そういうこと無駄にしないでとか、木は木のままで使えば、それもエネルギーの塊だからとか、いろいろなメニューがある。その目に見えるエネルギーだけに注目しすぎないということも必要。あと車も、今日皆さんほとんど車でみえたようですけど、車使わないような長野県にするとか。なんかそこら辺のところで、お考えなり、こうやったらどうかっていうような、お考えになっていることあればお伺いしたいなと思いました。

### 【長野県知事 阿部守一】

おっしゃるとおりだと思います。別にエネルギーの問題というのは、電力だけの問題ではないだろうというふうに思いますし、お話あったように、熱は熱として利用した方が効率がいいということも、全くそのとおりだと思いますので。先ほど言った「F・POWER プロジェクト」もですね、これ発電だけじゃなくて、熱利用も考えたプロジェクトにしていこうというふうに思っていますし、私は、木材の観点で言えば、長野県は森林県だけど、残念ながら林業県じゃないよねと、いろんなところで話させていただいています。林業関係者がいらっしゃるところでも、申し訳ないけど、そういう話をさせていただいていますけれども。ほとんど長野県の木材は県外に持って行って加工されてしまうような現状もありますし。実は先ほども家具を作っている若い人たちと話した時にも、どこから木材買ってきているのって聞いたら、これだけ長野県にあるのに、県外からって言うわけですよ。やはりそこは流通の問題がしっかりできてないと。先ほど路網の話もしましたけれども、さっきのエネルギーは、身近なところで身近なものをしっかり使っていきましょうということでも申し上げましたけれども、やはり木材も木材資源として活用するのも、もう少し身近なところですね、これは輸送のエネルギーもかからないわけですから、使えるような環境にしないといけないと思いますし。あと、食料の面も、水・食料・エネルギー。食料も、やはり地域のものはや

はり地域に来て食べてもらうような環境を作っていくことによって、長野県の観光もプラスに働くようにしていきたいなど。自然エネルギーの問題っていうのは、エネルギー単体の側面だけでとらえるのではなくて、暮らしであったり、文化であったり、あるいは、全体としての効率性であったり、そうした側面をしっかりと認識しながら活用していきたいなどというふうに思っていますので、ご意見は十分私も参考にさせていただきたいと思います。

### 【参加者3】

バイオマス利用となると、どうしても二の足を踏むのはコストの問題、ランニングコストの問題がかかってくると思うんですね。設備資金なんかは、国からの助成がある程度、今受けられるようになっております。ただ、その後、どうしても高いということになると、灯油使った方が安いということになると、どうしても二の足を踏んでしまう。今国から助成いただけるのは、間伐材なんか出した場合に、山土場なんかで検地した材木を測って、その量に応じて、あるいは、出す条件によって助成金をいただけるようになってはいますが、ただ、広葉樹だとか、あるいは、曲がりくねった針葉樹だとか、その枝葉なんか、それに対して助成金出ない。これを利用しないと、熱エネルギーにどうしても転化できない現状です。私は地元の、例えば、温泉の施設の熱量にしても、上田市にもかなり温泉施設がありますが、どうしてもコストの問題です。要するに、それが利用できるようにチップ化したものについて助成金をいただくとか、あるいは、重量換算でもいいですが、そういった方向で助成金を出していただけるように、国に是非とも働きかけて、もちろん県独自の予算でもいいですけども。それをお願いしたいと、よろしくお願いします。

### 【長野県知事 阿部守一】

国に頼むのは、頼めと言われれば、頼もうと思えば頼めますけど。私はもちろん国が財政支援したり、県が財政支援したりしなきゃいけない部分もあると思うのですが、ランニングコストのところまで頼りだすと、金の切れ目が縁の切れ目で、国は赤字国債いっぱい抱えていて、これからどうするのだというところがある中で、本当に持続可能な仕組みには多分なり得ないのではないかなという気がします。むしろ、どうすればコストを抑える仕組みができるかっていうのを、また真剣に考えてですね、やっていくということが必要なのではないかなというふうに思います。

とはいえ、バイオマスエネルギーをどう活用するかというのは大変重要なテーマですから、是非これ「自然エネルギー信州ネット」の中で、一緒になって我々も知恵出すようにしますので、考えさせていただければありがたいなというふうに思います。

### 【高木直樹氏】

灯油高かったですよね、去年とか今回の冬の。あの灯油の値段と、少なくとも

私の住んでいる長野市で売っているペレットの値段を見ると、エネルギーコスト的にはほとんど今とんとなっていて、だから、必ずしもペレットが高いというわけではないので、灯油の値段がこれから下がるのか上がるのか、私にはよく分かりませんが、今よりも、90円ぐらいの値段でだいたいとんとなんくらいですよ、ということだけはご理解ください。

**【参加者 4】**

私は、今大町市のごみ収集車の燃料のバイオ軽油を作っております。

先ほどの方がおっしゃったように、発電のみならず、熱利用とか燃料などということで、バイオ軽油もメニューの1つとして考えていただきたいと思います。

それで、長野県は廃食用油が産廃扱いなのですよね。私たちは、全国の「菜の花エコプロジェクトネットワーク」の一員として活動しておりますけど、他の都道府県は有価物扱いにしているところがほとんどなのです。産廃扱いということで、今までとても苦勞してやってきました。ですので、是非有価物扱いにいただきたいと思います。

産学官の連携なども遅れていると思いますので、よろしくお願いします。

**【長野県知事 阿部守一】**

「自然エネルギー信州ネット」で、バイオマス燃料みたいなものというのは、今は検討されているのですかね。

**【小田切奈々子氏】**

そうですね、今バイオマス燃料のことで、検討しているチームみたいなものはないです、まだ。なので、まだまだいろんな情報はいただきたいなと思っています。

**【長野県知事 阿部守一】**

あと、産廃扱いの話は事務方から説明します。

**【温暖化対策課 長田課長】**

環境部の中に、廃棄物対策課というところもございまして、そちらの課の所管になるわけなのですけれども、私も今のお話、自然エネルギーに関連があるものですから、若干お話は聞いております。廃棄物行政とすれば、廃棄物は適正処理されなければならないと、こういう命題も片やあるわけでもございまして、そこら辺でいろいろとですね、そちらの方に申し上げているところあるかと思っています。いずれにいたしましても、そちらのいろんなご要望等は、廃棄物対策課の方で聞きする用意はもちろんあると思いますので、またご相談いただければというふうに思います。

**【長野県知事 阿部守一】**



すみません。私もよく話聞いときますので、他の県と違っているのかどうか、違っているとすればなぜなのか。バイオマス燃料が広がることは、私はいいことだと思いますので、既存のルールがどうなっているか分らないですけれども、極力ですね、広がるように一緒に考えさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いたします。

最後、小田切さん、高木先生、一言ずつなにかご発言があれば、よろしくお願いたします。

#### 【小田切奈々子氏】

それでは最後に。自然エネルギーを導入したいけれども、なかなか最初にかかるお金が、初期投資が大変だというようなご相談があるのですが、長野県ではいろいろ事業モデルがありまして、飯田市では有名な「おひさま0円システム」とか、また、上田市でも「相乗りくん」と言ひまして、市民が立ち上げたユニークな事業で、広い屋根をみんなで分け合おうとか、いろんな知恵が出てきています。なので、何が正解というのではないのですけれども、いろんな地域で活躍している方たちと考えていくと、まだまだいろんなアイデアが出てくると思いますので、どうぞこれからもご一緒に取り組んでいけたらと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

#### 【高木直樹氏】

多分今日ここに参加された方が、すぐにでも家を建てるという方はいらっしゃると思ひますけれども、周りで家を建てようかということを考えていらっしゃる方はいるかもしれない。あるいは、車を買ひ替える、冷蔵庫を買ひ替える、テレビを買ひ替える、いろんな消費行動がございます。その時に是非、環境のこと、省エネのことを是非考えていただひて。家だと、35年40年そのままそこで住むわけです。車だと、10年から15年ぐらいでしょうか。冷蔵庫でも10年ぐらいでしょうか。その間は、そのものを使い続けるということも頭に入れていただひて、その買ひ替える時、リフォームする時は、最大のチャンスなので、きちんとした情報を手に入れて、今日言ひたことを思い出していただひて、是非省エネすることによって皆さんももうかりますので、是非そのことも頭に入れて行動をしていただけたらいいなと思ひます。

## 7 知事あいさつ

#### 【長野県知事 阿部守一】

大変長時間おつきあひをいただきまして、大変ありがとうございました。

今日いろいろお話ありましたが、まず皆さんにもう1回復習しておいていただきたいのが、今日は「しあわせ信州創造プラン」、是非皆さんに知っていただきたい。「確かな暮らしが営まれる美しい信州」、これが基本目標でありますの

で、是非一緒になって、皆さんとこのしあわせな信州を作っていきたいと思っていますので、是非ご協力をよろしくお願いいたします。

それから今日、自然エネルギー、あるいは、省エネルギーの話をさせていただきました。2つ申し上げたいと思いますけれども、1つは、最後の方がご質問されたことにも関係しますけれども、この「自然エネルギーの普及・拡大」というのは、実は今まで規制にひっかかっていたりして、自然エネルギーほとんど使ってないですから、今までやってないことをやろうとすれば、今までのルール変えなきゃいけないことが結構いっぱい出てきます。身近な水路で本当は発電したいなと思っても、水利権の問題とか、いろいろ課題があります。だけど、先ほど経済構造の転換のところでお話したように、今までと同じことを同じようにやっているだけでは、明るい社会に、私は進んでいけないと思います。今までと違うことに、一緒になってですね、チャレンジしていきたいと思いますし、県の今までのルールが間違っていれば、私はどんどん変えたいと思いますし、国に対しても、国の規制を変えた方がもっと地域が元気になるということは、どんどん提案していきたいと思いますので、是非ですね、これ企業活動やってらっしゃる方、あるいは、生活の中でおかしいなと思っている方、いろいろあると思います。是非そういう課題は、温暖化対策課の方にどんどん出していただいて、我々も積極的に規制改革は取り組んでいきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

それから、もう1点、冒頭申し上げたことの繰り返しになりますけれども、是非この「自然エネルギーの普及・拡大」、それから「省エネルギーの推進」、これ行政がいくら計画作って立派な数字をあげて、これやりますなんて言っても、ここにいらっしゃる皆さん方のご協力なしには絶対できませんので、本当に皆様お一人おひとりの行動を、私はお願いしたいと思います。是非一緒になって自然エネルギーをしっかりと有効に活用して、そして、無駄なエネルギーは使わない、そういう本当に持続可能な長野県を皆さんと一緒に作っていきたいというふうに思いますので、是非ご協力をよろしくお願いいたします。

大変長くなって恐縮でありますけれども、以上をもちまして、今日のタウンミーティング閉じさせていただきたいと思います。

本当にありがとうございました。